

〔後 記〕

「社会科学ジャーナル」第6号を、われわれの崇拝する蠟山政道先生の古稀記念論文集として、ここに世におくる。この社会科学研究所の個別研究論文集である「社会科学ジャーナル」が6号を重ねることができたこととともに、それが、この研究所の前所長であり、かつその研究活動を大きく発展させられた蠟山政道先生の古稀をお祝いする記念論文集として発刊できたことは、関係者一同の深く喜びとするところである。

私はこの「社会科学ジャーナル」の創刊号からその編集に関係しているものであるが、その経験からみても、このような個別論文集にはなかなか原稿が予定通り集まらないのが普通のようなところがある。ところが、今回の場合は通例とは異なって、きわめて多数のすぐれた論文が予定通りに集まって、編集の任にあるものたちを驚かせた。これはひとえに蠟山政道先生の学問の深さと人徳のいたすところであるといまさらながら深く感じいった次第である。

この論文集には、12編の論文と2編の紹介がおさめられている。論文の掲載順序については、それらが多くの専門分野に及んでいるところから、編集委員のあいだで、いろいろ論じられたが、結局は記念論文集という性格から、蠟山先生の業績と人物に関する鶴飼学長の論文を巻頭にかかげ、他の論文については、その内容が蠟山先生のご専門に近いものから、配列してみようということになって、そのようにさせていただいた。また記念論文集の通例として、先生の略歴とか著書目録とかが掲載されるのが普通であろうが、先生のご専門の分野で別に本格的な記念論文集の編さんが計画されていることを聞き及んでいるので、重複することを避けて、それを略させていただいた。

われわれがこの記念論文集を蠟山先生におおくりする意味は、先生のこれまでのご活躍とご指導に対して深い感謝の意を表わすためであることはもちろんであるが、さらに先生が今後もますます学問その他の分野で活躍くださることを願い、またわれわれをもこれまで以上にきびしくご指導下さることをお願いするということでもある。そこで、蠟山先生におかれては、今後も各分野から多くの期待がかけられていることを念頭におかれて、ますます健康に留意され、ご壮健でご活躍下さるよう、心から切望して後記の筆を擱く。

(1965年10月8日 小林記)